

経営一転語 116 ランチェスター第 2 法則

前回は、「ランチェスター第 1 法則」について、解説しました。今回は、「ランチェスター第 2 法則」について、解説してみましょう。

「ランチェスター第 2 法則」は、「集中効果の法則」とも言われます。

例えば、甲軍 2 人と乙軍 3 人が銃を発射しあいます。そして、一人あたり 1 分間に 6 発の弾丸を発射します。

甲軍は 2 人×6 発なので、12 発の弾丸を乙軍に向けて、発射します。

弾丸を受ける方は、乙軍 3 人で、12 発の弾を受けますので、1 人あたりの受弾数は、4 発です。

一方、乙軍は 3 人×6 発なので、18 発の弾丸を甲軍に向けて、発射します。

弾丸を受ける方は、甲軍 2 人で 18 発の弾を受けますので、1 人あたりの受弾数は、9 発です。

このとき、乙軍の 1 人あたり受弾数 4 発（リスク）というのは、敵方甲軍の 2 人の 2 乗です。

一方、甲軍の 1 人あたり受弾数 9 発（リスク）というのは、敵方乙軍の 3 人の 2 乗です。

このことから言えるのは、危険度は、敵軍の兵力の 2 乗となるのです。小さいと攻撃の被害も大きいのです。

これを企業戦争に置き換えれば、その危険度は企業規模の 2 乗に逆比例するのです。（規模が 2 分の 1 となれば、リスクは 4 倍となる。）

企業規模が小さいほど、リスクは加速度的に高まるということです。

では、企業規模の小さい会社は、どうすればよいのでしょうか？それは、次回に解説いたしましょう。